



江別市都市計画マスタープラン2024

はじめに

江別市は、JR函館本線の各駅周辺と国道12号を中心として市街地を広げてきましたが、都市基盤施設が充足してきたことや人口の増加が緩やかになってきたことなどから、都市の質を高める「コンパクトなまちづくり」へシフトし、平成16(2004)年には「江別市都市計画マスタープラン」を策定することで、都市内部の熟成を図る都市づくりを進めてきました。

それから20年が経過し、これからは江別市においても、本格的な人口減少と少子高齢化の波が押し寄せてくることを見込まれており、高度成長期に造られた建物やインフラも一斉に老朽化が著しい状況になってきていることなど、これまで以上に効率的な都市運営が求められています。

また、地球温暖化に伴い激甚化・頻発化する自然災害や新型コロナウイルス感染症の流行による人々のライフスタイルの変化など、今起きている変化だけではなく、今後想定し得ない変化が起きた時にも柔軟に対応できる都市づくりを考えていかなければなりません。

こうしたことから、今後も住みやすく魅力的なまちであり続けるため、令和6(2024)年からスタートする「えべつ未来づくりビジョン(第7次江別市総合計画)」で掲げる「幸せが未来へつづくまち えべつ」を将来都市像とし、必要な見直しを行いました。

本計画では、「拠点」と位置付けていた駅周辺等のエリアを具体化し、同時に策定した「江別市立地適正化計画」と連携することで、「コンパクトなまちづくり」を一層推進するとともに、良好な住環境や自然環境、インターチェンジをはじめとした江別市が有する特色や優位性などを最大限に生かす取組を進めることとしています。

また、地域それぞれの歴史や現状、特色等を踏まえた方針を定め、一段解像度を上げた内容としたほか、土地利用や道路・公園などのインフラ、防災・環境などの内容を骨格としながら、幅広い分野の施策と連携した内容とすることで、都市づくりの可能性を広げたものとしています。

今後は、本計画を運用し、具体的な取組を進めていくこととなりますが、将来都市像の実現に向け、市民や企業、大学等と共に取り組み、他の自治体や関係機関と連携することで、効率的で効果的な都市づくりを進めます。

結びに、本計画の策定にあたり、アンケート調査や意見交換などを通じてご協力いただいた市民の皆様、江別市都市計画審議会をはじめとする関係者の皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

令和6(2024)年3月

江別市長

後藤 好人

目次

第1章 都市計画マスタープランとは	1
1-1 計画の目的	2
1-2 計画の内容	2
1-3 計画の位置づけ	3
1-4 計画の目標年次及び対象区域	4
第2章 江別市の現状と課題	5
2-1 現状と課題	6
2-2 求められる都市づくり	17
第3章 将来都市像と都市づくりの目標	19
3-1 将来都市像	20
3-2 都市づくりの基本目標	21
3-3 将来都市構造	23
第4章 都市づくりの方針	27
4-1 土地利用の方針	28
4-2 都市施設の方針	37
4-3 都市環境の方針	47
第5章 地域別構想	53
5-1 基本的な考え方	54
5-2 地域区分	54
5-3 地域別構想 江別地域	55
5-4 地域別構想 野幌地域	63
5-5 地域別構想 大麻・文京台地域	71
5-6 地域別構想 豊幌地域	79
5-7 地域別構想 農村地域	87
第6章 計画の推進に向けて	95
6-1 計画の推進	96
6-2 計画の進行管理	97
資料編	99
1 見直し経過	100
2 用語集	103
3 将来人口フレーム	109
4 持続可能な開発目標（SDGs）の詳細	112